

様の眼瞼運動と共に急速に正中に戻る reverse ocular dipping (ROD) が出現した。頭位変換眼球反射は保たれ、roving eye movement の混在を認めた。ROD の出現には、テント上の広汎な病変が関与していると考えられた。

6. Personification を伴った肢節運動失行の1例

坪井義夫, 上司郁男 (千葉労災)

症例は69歳、右利きの女性で白血病のため左頭頂葉後部(角回, 縁上回)に腫瘍形成を認めた。左上肢に自分の子供に話しかけるような症状すなわち personification と肢節運動失行, 左半側空間無視, 左上下肢の触覚の消去現象を呈した。personification は患肢を自己以外的人格として扱う希な半側の身体意識の異常で左片麻痺に合併し片麻痺無視を伴うことが多い。本症例は左肢節運動失行を呈し麻痺を認めない点が特徴であった。

7. 外傷性脳内出血の2例

——高次脳機能障害の検討——

高橋三津雄, 小松隆行, 松本俊介
伊藤 寿彦, 青山道子, 北野邦孝
(松戸市立)

頭部外傷後の両側側頭～後頭葉の脳内出血の2例に見られた視覚認知障害について検討した。線画の模写, 同一絵のマッチングは良好なのに反し, 物品・画像の呼称はきわめて不良で, 触覚などの他の感覚モダリティーによつてはじめて呼称可能であり, 連合型視覚失認に相当した。1例は coup, 他の1例は contre-coup injury によると考えられたが, ともに経過は良好で, 視覚認知障害は2ヶ月後にはほぼ消失した。

8. 体外循環手術時の脳障害予防のための術中脳波モニタリングの有用性について

本間甲一 (県立舞鶴)
大音 俊明, 須藤義夫, 村山 博和
仲田 勲生, 高原善治, 瀬崎登志彰
中村常太郎 (同・循環器外科)
新井公人 (千葉)

体外循環手術 20 症例に術中脳波モニタリングを行った。軽度低体温 フェンタニル 麻酔下で脳波を測定し, Compressed Spectral Array (CSA) で周波数を, 紙面低速度記録法, 藤森法で振幅を検討した。周波数, 振幅とも術中食道温の低下に平行して変化し徐波化と低振幅化を認めた。全例で術後脳障害を認めなかった。藤森

法は紙面低速度記録法で代用可能と思われた。当院における術中脳波の正常値を明らかにした。

9. ビタミン B₁₂ 静注の末梢神経興奮伝導に対する作用

——ニューロパチーによる異常感覚への効果——

桑原 聡, 鴨下 博, 石井周一
竹谷虎雄 (JR 東京総合)

ニューロパチーによる異常感覚に対するビタミン B₁₂ 静注の効果を検討した。対象は12例でメチル B₁₂ 500 μ g を隔日或は週一回で静注した。著効2例, 有効5例, 無効5例であった。著効例では静注後二日間異常感覚は消失し, 1例では microneurogram で神経幹から異常自発放電が記録され, 静注後放電は抑制された。ビタミン B₁₂ 静注は末梢性の異常感覚に対して有効であり, 障害神経からの異常自発放電を抑制する可能性がある。

10. 視神経炎を合併した急性多発性根神経炎 (axonal form)

荷堂 謙, 古口徳雄, 中島雅士
得丸幸夫 (千大)

症例は11歳, 女性。発症後約2週間の経過で四肢筋萎縮, 筋力低下, 腱反射消失, 両側高度視力障害, 広汎な脳神経麻痺, 自律神経障害(発汗障害, 高血圧, 頻脈, 消化器症状, 排尿障害等)の症状が完成した。電気生理学的検討, 自律神経機能検査からコリン作動性自律神経障害を強く認める軸索障害型の急性多発性根神経炎と考えられた。視力障害の機序として血管運動神経の調節障害による視神経への虚血性の変化が疑われた。

11. 反射性交感神経性萎縮症 (motor form) に対する星状神経節ブロックの経験

師尾 郁, 菅宮 斉 (鹿島学災)

症例は38歳, 女性。全身打撲後2カ月で, 左上肢の筋力低下, 腫脹, 痛みが出現。左上肢の皮膚温は対側に比し2°C 上昇。頸部 MRI, 神経伝導速度, 針筋電図は正常。筋力は noradrenalin 静注試験で増悪, 1% lidocaine での星状神経節ブロックで改善, 反射性交感神経性萎縮症の motor form と診断。17日間で計8回の星状神経節ブロックを施行。施行期間中に皮膚温の正常化と軽度の筋力回復, その後数カ月で筋力は更に改善し正常に復した。